

提 言 書

「安全・安心のまちづくり」
(こども会について)

平成22年3月2日

平成21年度 摂津市市政モニター

平成22年3月2日

摂津市長 森山一正様

摂津市市政モニター

代表 長尾 岬雨

「こども会」の運営に関する提言

はじめに

平成21年は日本の国にとって、自民から民主へと政権交代という大きな節目の年になりました。新聞やテレビ等メディアでは毎日のように、そのことを報道されていますが、私たち市民の間には、まだ何も見えてきません。

では今、実際の生活の中では何を求められているのだろうか。このような議論の中、やはりまちづくりの中のこども達の「安全、安心」についてのテーマが大きく取上げられました。その中でも重要な位置を占める「こども会」に重点をおき、今年度の市政モニター提言に取り上げてみました。

摂津市の将来を担うこども達を情操豊かな、また健全な精神を養う目的をもって、一つでもこども会のお役に立てればと願う次第です。

森山市長におかれましては、市政モニターの思いをヒントに市政の充実にご尽力いただければ幸いです。

こども会の現状と問題点

1 加入率について

昭和60年には97%の加入率であったが、現在では50%そこそこの加入にとどまっている。(資料参照 摂津市こども会の推移)

従来こども会は自治会の中での活動だったのが、少子化のあおりを受け、一自治会では企画するにも人数がたりなく、活動を停止する、または他の自治会との合同や他のグループとの合併などで本来地域密着型の活動が縮小されることを余儀なくされている。

2 組織について

若い世代の保護者の中には、共働きの家庭も多くみられ、役員等の成り手も少なく、当番が当たるとこども会を脱会する現象も少なからずある。

一方では、こどもの成長のなかで精いっぱい活動を頑張っている保護者も多くいる。一部分のこども会のこととは思うが、1年で役員が変わっていくという体系があり、それでは活動内容の充実とまではいかないのではないか。現実に生活に忙しい中で、順番制で回ってきた役員の活動では内容の見直し等はできにくく、前任からの活動そのまま消化するのに精いっぱいとの声もある。

3 活動について

こども会の行事をみると、運動会、廃品回収、清掃、歩け歩け運動、クリスマス会等、活動は広範囲にわたり、こども会独自の行事が多いと感じられる。

また、保護者達が表に出て子供を保護しているような活動が多く、こども自身での活動ができる環境にあるとは思えない。しかし、一部のこども会は廃品回収をこども達だけで行い、協力者には回収袋等のお礼をしているという活動も聞いているが、そのような会は稀である。

意見

1 加入率について

従来子ども会というものは、自治会の傘下にあるのではないか。自治会とは、子ども会があり、老人会がありと一つの地域をまとめる立場、また役所と市民をつなげる役目を負っているのではないだろうか。

その自治会すら、加入世帯が減少している。しかしながら、活動を頑張っている自治会の子ども会加入率が高い現象をみると、自治会の充実こそが、子ども会の充実にもつながるのではないか。

2 組織について

役員はこどもの保護者だけではなく、自治会、老人会からの役員や、こどもの育成について賛同していただく方々で役員の成り手を広く募集すること。団塊世代の人材や大学生高校生等の参画によって、子ども達が地域社会との結び付きが持てるのではないか。摂津市子ども会育成連絡協議会（以下「市こ連」という。）の会則第3条には、子ども会の育成に熱意を持つ育成者及び指導者と明記してあるが、実際はどうであろうか検討する必要があると思える。

3 活動について

子ども会は異なった年齢の子ども達が触れ合って、思いやりの心を育てることを目的とする。さらに、その中に大学生高校生の指導者の参画により、親しみやすく共に歩む時間をもつことで、より楽しい活動が増えるのではないか。

道路、公園の清掃で奉仕の精神を養い、地域の美化を地域の人々と共有することにより、社会の一員としての自覚を持つことにもつながる。また、廃品回収は子供の自立を養う意味でも重要な課題である。

- 1、子ども達の力で回収し、得たお金をいかして活動の基金にする。
- 2、子ども達で運営する。
- 3、内容も子ども達自身で考えることで、より楽しい活動ができる。
- 4、空き缶、新聞紙等のリサイクルに対するものの考え方や価値観を育てる。

森山市長が理念として掲げておられる「人間基礎教育」思いやり、奉仕、感謝、あいさつ、節約の中での活動が子ども会の理想である。

あとがき

こども会が一部激減している地域の現状や全体の加入率の低下をみると、果たしてこのまま、こども会が存続すべきものだろうか。また、役員はこども会の在り方、目的等内容を把握しているだろうか等の疑問視する声もあった。市こ連の組織図を見るに、これほど立派な組織があるのに、なぜ加入率の低下が起こるのか。(資料参照 摂津市こども会組織図)

それは、こどもの自主性や自立を育てる目的を持つこども会に、現実にはたくさん大人の社会の組織がとりまき、運営し、大人の社会のこども会を作っているのではないか。市こ連の役員方の活動は大変ご苦労ですが、今一度ふりかえってこどもの自主性を大切にすること、森山市長が「思いやり、奉仕、感謝、あいさつ、節約」の精神を、いかにしてこども達の活動の根拠にできるか検討して頂きたい。また、庁舎では、縦割りの行政ではなく横のつながりを持って、こども達の安全、安心を強化することも大切だろう。

モニターでは、こども達が健やかで、健全な精神「人間基礎教育」を持って、将来摂津市を担う市民として成長することを祈って、ここに提言をいたします。

▽ 資料等は自治振興課で閲覧できます ▽

- ・ 資料…摂津市こども会の推移
- ・ 資料…摂津市こども会組織図
- ・ 摂津市市政モニター通信